

802.11acデバイス試験について： FCCガイダンスの解説

David A. Case
NCE, NCT

いかに最新版の規格が計画されても、時に規格の最新版はあらゆる点で最新技術を決して完璧に表現していないように思える。それが実際に悪いとは言わないが、新技術のいくつかをどうやって試験するかについて限られた経験しかないので、事は全く正反對なのである。したがって、短期で解決すべき問題は、いかに適切な製品試験をするかである。

これに取り組むいくつかの方法があり、例えば数年前、この問題がWiMAXに存在したが、メーカー数社が集まり、顧客のデバイス試験用に暫定的手順を開発した際、問題は部分的に解決された。FCCがこの件について綿密に調査し、その手順はある特定の構成を試験するために使うことができた。

米国の連邦通信委員会（FCC）認証部門は、多種多様な試験技術についてガイダンスノートの知識データベース（KDB: Knowledge Data Base）を開発することによって、これら

の問題に対処している。

このガイダンスノートは業界に対し、機器の試験方法についてガイダンスを提供する推奨試験規格や、TCBがこういった新技術をレビューするガイダンスなどと共に、補助的に使われている

C 63 ワークグループが C 63.10 rev 2 を投票に送った直後、FCC は 802.11ac 無線に提案された試験方法について新しいガイダンス草案を発行し、コメントを求めた。802.11ac は、規格草案に基づいてまだ整理中で市場に対し準備中の技術が規格草案に基いていることを考えると、これを規格に加えるのは、よく見ても時期尚早であろう。

したがって、これで発行された KDB により、TCB レビューも含めメーカーから試験所までの業界関係者がこういった製品の試験経験を積むことが可能になり、その結果、規格の今後のバージョンに将来採用するため KDB そのものを改善することができるようになった。

要求事項

システムを試験する前に、802.11ac が正確に何であるか、きちんと理解する必要がある。